其 木 E	本目標① 嬉野市に住みたい・行きたい"ひと"の					し"の法	きれをつ	ノス			
	目標	-	準値	115	H27	H28			04	度末実績	
重要業績評価指標	平成31年KPI	年度		直	値	値	値	1 130,2	-0-	- <u>皮术关根</u> 把握方法	
交流人口	2,258千人	H26	1,998	3千人	2,032千人	2,048千人	2,071	-人	H2	9観光客動態調査	
人口の社会増減	△99人	H26	Δ1	35人	△216人	△86人	△125	<b>6人</b> 佐賀県人口移動調査報告書			
(1)観光客の誘致促進・	国際交流活動の	推進									
重要業績評価指標 -	目標		準値		H27	H28		平成2	29年	度末実績	
主女术傾叶岬沿标	平成31年KPI	年度	<u>  1</u>	直	値	値	値			把握方法	
観光客数	2,258千人	H26	1,998	子人	2,032千人	2,048千人	2,071 <del>  </del>	人	·人 H29観光客動		
外国人観光客数(宿泊)	112千人	H26	38.5	千人	63.9千人	87.6千人	120千	人	人 H29観光客動態調査		
宿泊数(国内•国外)	679千人	H26	544	千人 603千人 612千人 635			635千	人	H2	9観光客動態調査	
目状的松体等	平成2	9年度の	進捗	步状況(平成30年3月末時点)			時点)			備考	
具体的な施策	これまでの取組(進捗	、成果、課	題等)	今後の取組予定			ŧ	評化	画	1佣 右	
・「温泉」、「食」、「自然」などを 活用した新たな観光資源や魅 カの創出	継続した観光資源や、各地区に出向 PRを行うことにより の魅力を広く伝えた。	]いての額 り、観光資	見光 資源	町、観 連携を 磨き」	光協会な を行い、関	光連盟やはなどの関係 などの関係 死存観光道 たな魅力が	系団体と 資源の	H28		※評価欄について A:取組を実施した(実施済・実施 中) B:取組を一部実施した C:方針、具体策等を検討中 D:未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価	
・温泉街と周辺地域・関係団体 等との連携による回遊性のある 観光まちづくり推進	滝公園の試行的ない、また、宵の美行 い、また、宵の美行 拠点を創出し、市	湯遊広場等のライトアップや、轟の 滝公園の試行的なライトアップを行い、また、宵の美術館等の観光 拠点を創出し、市内外の来客の 夜の回遊性を高めることができ た。			温泉街の橋へのライトアップを行い、夜間の見所を増設し、ますますの観光客の回遊性の向上及び訪問客の増加に取り組む			H28 H27	A		
・源泉集中管理による温泉の保 全	源泉集中管理モニ 導入に向け、源泉 の協議・検討(新戸 業説明等)を行い 実施した。	所有者会 所有者へ	€議で の事	29年/ 成30·	度にシステム 31年度に	導入に向 ム設計をデ こシステム構 更する予定	記了。平 築(設	H28 H27	В		
・広域的な観光ルート形成等を 視野においた広域連携による 「日本版DMO」の創設推進	嬉野版DMOの組織 た取り組みを行っ 光客動態調査、観 商品開発などに取	た。併せ 記光情報	て観 発信、	い、II 整える の基	式な組織 る。また、 本方針に	登録申請 戦としての 嬉野市観 基づき観	体制を 光戦略	A H28			
	中日日    元 る こ 1 これ	ヘン 小旦/ひ/、	-0	を展開	乳していく	0		H27	_		
・域内のテーマパークや焼き物 体験等とのタイアップによる観 光プロモーション	九州忍者保存協会 肥前窯業圏、九州 の連携により、広会 及び観光誘致が図のあるニュースを広ぐ	イオルレた 域的な観 図られ、話	ごどと !光PR 話題性	ルや、 の里† ムを、	既存の施 専物館等	開設され。 記設である の体験プ -ルとして	志田焼 ログラ	H27 A H28	`		
	ができた。				_ ~ ~ ` ` ` ` ` ` ` ` ` ` ` ` ` ` ` ` `			H27	Α		
・主にアジア圏をターゲットとし た広域連携等による海外プロ モーション	県観光連盟や観光 し、韓国・台湾をは 海・タイ等を中心!	はじめ香港に誘客プロ	巻・上 モー	形態・ 広域: を軸!	も変わって 連携や観 こ、韓国・		今後も の連携 じめ香	Α			
	ションを展開するこ	とができた	<b>:</b> 。	港・上海・タイ等を中心に誘客で				H28	Α		
			ロモーションを展開していく。				H27	Α			

具体的な施策	平成29年度の進捗	状況(平成30年3月末時点)		- 備 考
共体的な肥果	これまでの取組(進捗、成果、課題等)	今後の取組予定	評価	1/19 75
・国際会議等のコンベンション誘致やスポーツ大会・合宿等誘致	オランダ。空手合宿やVプレミアリーケ 久光製薬強化合宿、ホッチャキャラ バンでのパラスポーツリオオリンピック金 メダリストの訪問等、文化・スポー	東京オリンピック・パラリンピックが目前に迫る中、今後もオリパう首長連合や県誘致推進協議会等と連	В	※評価欄について A:取組を実施した(実施済・実施 中) B:取組を一部実施した C:方針、具体策等を検討中 D:未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
	ツ振興課が中心となり誘致を行	携しながら関係他課と協働し、 誘致や受入れを推進していく。	H28 B	
	うことができた。		H27 B	
・観光情報等一元化整備の推 進	基本システムの構築を行い、情 報一元化・情報発信を行う環境	DMOの組織を中心に、市内商店のポータルサイト加入を促進し、市内の統一した観光情報の発	А	
<u>進</u>	整備ができた。	信等が可能となるような体制を 整える。	H28 B	]
		正だる。	H27 B	]
<ul><li>観光関連多言語表記の推進</li></ul>	市内観光施設の案内看板等の 多言語標記への改修を行い、インバウンド、観光客の対応も可能と	今後も市内観光施設などの多 言語標記対応を行い、インバウント 客がストレスなく市内観光が可能	А	
	した。	となるような環境整備を行う。	H28 A	
			H27 A	
・観光関連Wi-Fi整備等通信 環境整備の推進	平成27年度までで一定の市内 Wi-Fiエリア整備・拡充を完了。平 成29年度は市においてWi-Fiエリ	今後も宿泊施設を含む観光施 設等の事業所の独自設置も含 め、効果的な通信環境整備を推	А	
	ア整備・拡充事業の取り組みは 行っていない。	進していく。	H28 A	
			H27 A	
・総合免税カウンターの開設	未実施。 (平成29年度は、電子決済シス テムの普及・促進のための補助	見直しを検討。 (電子決済システムの普及・促	D	外国人観光客など の誘客や消費拡大 を図るためには、 「電子決済システム
	制度を創設した。)	進に向けた取組みを行う。)	H28 D H27 C	— . · · · · · · · · · · · · · · · · · ·

(2)移住支援及び定住										
重要業績評価指標	目標 平成31年KPI	基 年度	準値	直	H27 値	H28 値	値	平成2	9年	度末実績 把握方法
市が支援した移住者数 【累計】	40人	十 <u>段</u> H26		<u>B</u> 人	5人(2人)	5人(0人)	5人 (0人)			がシク利用者実績 (企画政策課)
定住奨励制度による定 住者数【累計】	750人	H26	15	0人	286人 (136人)	<b>483人</b> (197人)	690人 (207人			奨励金利用者実績 (企画政策課)
目伏的北坡架	平成2	29年度の	進捗	状況	(平成30	年3月末	時点)			/# <del>*</del>
具体的な施策	これまでの取組(進捗	步、成果、課	題等)		今後の	取組予算	定	評値	西	備考
・シティプロモーション動画等の 制作	プロモーション動iによる市歌CD等 による市歌CD等 ら、自然・文化など 力やふるさとの温 情報発信し、定住 び交流人口等のも	を活用した ど嬉野市( もりなどで ・移住促	なが か魅 を広 を 進及	び嬉!	したプロモ 野市歌C□ Fの魅力等 好住促進を	D等を活用 発信に努	ル、さら め、定	A H28 H27	A B	※評価欄について A:取組を実施した(実施済・実施 中) B:取組を一部実施した C:方針、具体策等を検討中 D:未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
・大都市圏での相談会開設	東京及び福岡での 談会に嬉野市ブー 談者に対し嬉野市 や移住関連制度等	-スを出居 fへのアク	展。相 フセス	出展し	市圏での? ン、継続し	た移住・	定住対	В		
	・東京(H29.6.11)での ・福岡(H29.9.30)での	相談件数:	10件	東争:	業に取り約	狙ん ぐいく	• 0	H28	В	
	- 作画 回 (日29.9.30) での	作政计数:	101+					H27	В	
・空き家バンクへの登録促進	市ホームページャ 家バンクへの掲載 信し、登録件数の た。	はにより情 増加を図	報発	空き3 奨を1		に対する	登録勧	Α		
		f規登録物件∶6件 f規利用登録者∶12名			より寄せら こした登録			H28	Α	
	平成29年度中の		:1件	2451	CO/C # 15	*#J>CC1	1 70	H27	В	
・空き家に対するリノベーション 助成制度の創設	検討中であり、創ていない。	設までに	至っ		事例等をき		果的な	С		
						_		H28	С	
								H27	С	
移住支援制度の創設	検討中であり、創 ていない。	設までに	至っ		事例等をき を創設した		果的な	С		
	C 0 1/2 0 1°			叩及	で別取した	_U '0		H28	С	
								H27	С	
・空き家等を活用したお試し移住の推進	検討中であり、実ていない。	施までに	至っ		家調査と過		費用対効	С		
上〜/〕	C0.740.°			木で	ᄀᅜᄼᆙ쨔ᇅᆝ	U/_U ·0		H28	С	
								H27	С	
・生活排水処理施設の整備促 進	これまでの集合処 (個人設置型)に加 (市町設置型)事業 とで、市内全体で	加え、浄化 業に着手	比槽 したこ	共用に 境を いまち		質改善・生 住みたい 目指し、気	生活環 ^・行きた E住支援	A H28		
	スが平準化された		_	未整体	備地区の していきた	早期整備		H28		
				Ι μ , μ ,	1.	0		l <u>-</u> /		

(3)文化の薫るまちづく	りの推進									
重要業績評価指標	目標		準値		H27	H28		平成29	9年	度末実績
	平成31年KPI	年度	ſ	直	値	値	値		把握方法	
社会文化会館「リバティ」 における文化イベントの集 客数	2,000人	H26	1,00	00人	1,745人	3,164人	5,230		各イベント入場者実績 (文化・スポーツ振興課)	
	平成2	9年度の	進捗	状況	(平成30	年3月末	時点)			/ <del>++</del> +-
具体的な施策	これまでの取組(進捗	、成果、課	題等)		今後の	取組予算	ŧ	評価	6	備考
・県内外から多くの来場者を呼 べる演奏会、舞台芸術、展覧会	全国的に著名な歌リニストのコンサー	-トの実施		継続し たい。		且みを行っ	ていき	Α		※評価欄について A:取組を実施した(実施済・実施 中) B:取組を一部実施した C:方針、具体策等を検討中 D:未着手または見直しが必要 下段は適年度の評価
等のイベントの誘致及び開催	落語公演を開催し	<i>た</i> 。		,_0 0				H28 ,	Α	
								H27	Α	
・若手芸術家の育成支援のための新たな活動拠点及び交流の場の整備による新たな市の	昨年度よりアマチ 披露の場を設け、 習の場として提供	リバティをすることに	を練 により			検を生かし 業を計画		Α		
魅力発信		活動拠点・交流の場を提供。リース たい。 たい。						H28	Α	
	た。							H27 (	С	
・文化芸術の分野において国 内外で活躍している佐賀ゆか り・嬉野ゆかりの人物に光をあ	嬉野にゆかりのあ のコンサートやダ	ンスワー		継続し たい。		且みを行っ	ていき	А		
てたイベントおよびワークショップ等の開催	ショップを実施した	<b>-</b> 0		/_0.0				H28	Α	
フザの別底								H27	В	
・誰もが、いつでも嬉野で開催 する文化芸術に関する情報が 取集出来るように市内外および	市内チラシの回覧 スター掲示、ラジス 及びフェイスブック し、自主事業やリ	ナ放送、r 7等SNSを	ħHP 括用		的な情報:		い、閲覧	Α		
県外への情報発信	するイベントの情報			ם כי	H 1-0 CV	E /_U·0		H28 ,	Α	
	た。							H27	В	
・塩田津、志田焼の里博物館、 長崎街道、キリシタン史跡、鍋 野和紙など歴史的資源を活用し	塩田津三の蔵で計 ト、三の蔵周辺で					史資産を っていき <i>た</i>		Α		
た文化振興	施した。			* 取り組みを行っていきたい。 			· <del>-</del> 0	H28 (	С	
								H27 (	С	

(4)人と地域が元気になるスポーツの推進										
重要業績評価指標	目標		準値		H27	H28		平成2	29年	度末実績
主文不识印圖加尔	平成31年KPI	年度	1	直	値	値	値	_		把握方法
スポーツ合宿参加者数	10,000人	H26	5,00	00人	5,867人	6,133人	3,700			高誘致補助金実績 ヒ・スポーツ振興課)
スポーツボランティア登 録者数	500人	H26	0	人	0人	0人	0人		(登	録制度未整備)
具体的な施策	平成2	29年度の	進捗	状況	(平成30	年3月末	時点)			備考
共体的な心束	これまでの取組(進捗	、成果、課	題等)		今後の	取組予算	Œ.	評	価	1佣 行
・魅力あるスポーツイベントや 東京オリンピック・パラリンピック に向けたスポーツキャンプなど の誘致のためのハード・ソフト両 面での取り組み	ミッションと連携し 心とした海外スポー 誘致に取り組んた また、スポーツ合 i 議会を組織し、事	手年同様、佐賀県スポーツコッションと連携し、オランダを中かとした海外スポーツキャンプを入れた取り組んだ。 また、スポーツ合宿誘致推進協議会を組織し、事前合宿地としてオランダ女子空手の代表選手でボッチャ日本代表の強化合宿					予に入 :おいて アンの	Α		※評価欄について A:取組を実施した(実施済・実施中) B:取組を一部実施した C:方針、具体策等を検討中 D:未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
面での取り組み								H28	Α	
	を迎えた。	200 3211	<b>-</b>					H27	В	
・市内外で行われる集客力のあるスポーツイベントを活用した「スポーツ都市うれしの」「観光地嬉野温泉」の魅力発信及びスポーツイベントと宿泊施設との連携による誘客促進	ンサーにより、スク の公園において婚 けPRを行う。また 前半終了後、PRI や嬉野高校チアリ	サガン鳥栖嬉野DAYでの冠スポッサーにより、スタジアム隣接 O公園において嬉野ブースを設 サPRを行う。また、試合前及び がントにより嬉野市 前半終了後、PRビデオの放映 ら嬉野高校チアリーディングの 玻露により嬉野市のPRを行っ					Rに加	A H28	<b>.</b>	
	<i>t</i> =.	_							В	
<ul><li>市民全員でスポーツを支える スポーツボランティア制度の創 設</li></ul>	体育協会等を通じ スタッフを募集した が、思ったようないた。	こところで	ある	体と0 検討! よる2	D連携なる し、市内で スポーツ参	)ボランテ ご新たな耳 『のボラン 『かの風漓	双組みを ティアに	H27	<u> </u>	
	/			させか	とい。			H28	С	
								H27	В	
<ul><li>・ 嬉野らしさのある特典を活かしたスポーツポイント制度の導入</li></ul>	ポイント制度の導 制度設計段階であ		ては	を研究の健康	究し、健康 東ポイント	入した先 寿命延伸 としての 寺続性ので	iのため 実施も	C	;	
					こ人れし、f を検討し <i>f</i>		えだす でん	H28	С	
				L_				H27	С	
・温泉観光地である強みを生かした力強いスポーツツーリズムの推進を目指す官民が連携したスポーツコミッション組織の設立・春成	を組織し、官民連	携した活 予算)につ	動を いて	を中/ 色を4 ムを(	いとし、今 主かしたス 左賀県との	秀致推進 後、嬉野 スポ―ツッ D連携・協	市の特 ノーリズ	A H28		
立・育成				めて推進していきたい。				H27		
								П21	ם	

(5)ひとにやさしいまちつ	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·								
重要業績評価指標	目標 平成31年KPI	基 年度	準値	直	H27 値	H28 値	値	F成29 <sup>左</sup>	F度末実績 把握方法
外国人や障がい者にも対応 できるユニバーサルデザイン (UD)ガイド登録者数【累計】	20人	十度 H26		<u>。</u> 人	0人 (0人)	9人 (9人)	12人 (3人)	(7	実績 「民協働推進課)
宿泊施設を利用する障が い者、高齢者、外国人向 け避難訓練の実施【累計】	100回	H26	0	回	0回 (0回)	2回 (2回)	2回 (0回)	(7	実績 市民協働推進課)
パラリンピックの正式種目 「ボッチャ」競技人口【累計】	1,400人	H26	0	人	90人 (90人)	192人 (102人)	322人 (130人		レクボッチャ大会参加 績(市民協働推進課)
   具体的な施策	平成2	9年度の	進捗	状況	(平成30:	年3月末	時点)		┃ <del> </del> 備考
共体的は旭泉	これまでの取組(進捗	、成果、課	題等)		今後の	取組予算	ŧ	評価	1/11 /5
・ すべてのひとがまち歩きを楽 しむことができるようハード・ソフト両面にわたる取り組みの充実	フーラン・ファイン・ファイン・ファイン・ファイン・ファイン・ファイン・ファイン・ファイ	付やイベ るなどし す貸し出	ント た。 しや	直した の実力 BFTC するカ	くラジオの など定期的 施とPR活 のガイド。 ガイドとの う充実を図	りなメンテ 動。 と他団体↓ 連携を深	ナンス	A H28 A H27 A	※評価欄について A:取組を実施した(実施済・実施 中) B:取組を一部実施した C:方針、具体策等を検討中 D:未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
・バリアフリーな避難体制を確 立するための施策の推進	全旅館へ避難誘う布した。また、点質館作成した。				度も新たⅠ 避難図作』			A H28 A H27 B	
・市民や企業、団体など市全体で、すべての観光客を受け入れて満足していただくためのユニバーサルデザイン(UD)に対する意識の向上及び普及啓発の促進	し 視覚障がい者、ほ 力ム講習会の開催	障がい者、ほじょ犬ウエル 講習会の開催をした。			各種UD講習会を開催する			H28 A H27 A	
・ すべてのひとがハンディなく、 一緒に楽しめるユニバーサルスポーツの普及の促進				者、隨	ンクボッチ うがい者に 取り組 <i>み</i>	こ関わらす	げー緒に	A H28 A H27 A	
・ユニバーサルデザイン(UD) やバリア情報などの情報発信の 充実		服を障害を持つ旅行者に提   一方俊も情報提供の継続及び   マスタ   マス						A H28 A H27 A	
・建築物、公共交通、道路、公園など、まちづくり全体の面的プロニバーサルデザイン(UD)化の促進及びバリア状況調査の更なる充実	は 新築工事及び佐賀 コロフェネのアドル	買県公共	施設	するし	施設を含る JD化への 売して行う	アドバイス		A H28 A H27 A	
・ユニバーサルデザイン(UD) の「聖地」を目指し、連携協定をである佐賀女子短期大学をはりめとする県内大学との連携強化	オモニターや西九     のボッチャ大会協	州大学生	E等	各種の	事業への	連携を強	化して	A H28 A H27 A	

(6)新幹線を生かしたま	ちづくりの推進								
重要業績評価指標	目標		準値		H27	H28		平成29年	F度末実績
主女术帜矸侧汨憬	平成31年KPI	年度	ſ	直	値	値	値		把握方法
新幹線嬉野温泉駅前整 備率	40%	H26	c	)%	0%	26.1%	36.3%		区画整理事業にお 面整備率
目状的心体等	平成2	9年度の	進捗	状況	(平成30	年3月末	時点)		/# <del>**</del>
具体的な施策 	これまでの取組(進捗	、成果、課	題等)		今後の	取組予算	ŧ	評価	備 考
・土地区画整理事業を用いた	道路築造を行った	- 0		引き約	売き事業の	の推進に	努める。	В	※評価欄について A:取組を実施した(実施済・実施 中) B:取組を一部実施した C:方針、具体策等を検討中 下段は過年度の評価
整備の促進								H28 B	1 121002 1 1200111111111111111111111111
								H27 B	
・「嬉野温泉駅周辺まちづくりる 員会」の提言を受け、駅周辺施	駅周辺まちづくりかの開催	シンポジワ	貝会]の掟言を美現させるに					В	
設整備の促進	の所惟		の事業推進					H28 B	]
								H27 B	
・新幹線嬉野温泉(仮称)駅開 業に向け広域的誘客促進の取	佐賀県及び5市ネ よる取組	シットワー・	クに	佐賀!		<b>市ネットワ</b>	一クに	С	
組の実施	その政権			ው ማ ብ	入が丘			H28 C	]
								H27 C	
・都市再生整備計画事業等を用いた魅力ある駅前の創出	駅周辺まちづくり	シンポジワ	ウム	員会.	の提言を	問辺まちつ €実現させ		В	
一	の別に			の事	業推進			H28 B	]
								H27 B	
・新幹線嬉野温泉(仮称)駅開業や嬉野医療センターの駅周辺への移転を見据え、適宜公共交通路線見直しを行うとともに、				者、タ	クシー事	ター、バス 業者及び 予医療セン	市で協	В	
広域基幹バス路線の充実	協議を行った。			転に伴い路線再編予定である				H28 B	
				121-110 2415/13/1111 7 2 005				H27 <b>A</b>	

(7)ふるさと教育の推進									
重要業績評価指標	目標		準値		H27	H28		平成29	<b>丰度末実績</b>
主女术傾叶岡沿場	平成31年KPI	年度	ſ	直	値	値	値		把握方法
市内在住高校生への卒業後 に関する質問で「嬉野市に住む」又は「嬉野市から出ていく が将来は嬉野市に戻ってき たい」と回答する生徒の割合	40%	H27	3	0%	% 30% — —			(H2	9アンケート未実施)
具体的な施策	平成2	29年度の	進捗	状況	(平成30	年3月末	時点)		- 備考
八十十八の世界	これまでの取組(進掛	步、成果、課	題等)		今後の	取組予	定	評価	E. HI
・「嬉野学」(郷土学習)による 心の教育の推進。「嬉野学指導 資料集」の活用による郷土 を 愛する心の育成等のための取 組の充実	時間」担当者を招 心の教育推進部: 「豊かな心の教育 各学校での「嬉野	各学校の「総合的な学習の」担当者を招集し「豊かな 対育推進部会」を設置。 かな心の教育推進部会」で 校での「嬉野学」の学習に した資料やデータを全学校 有。				上の実践 り郷土を動 践を検証 となるよう お会」がは でなると	愛する心 し、より 「豊かな 中心と	H28 A H27 A	※評価欄について A:取組を実施した(実施済・実施中) B:取組を一部実施した C:方針、具体策等を検討中 D:未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
・学校、家庭、地域のサポートによる地域活動への積極的な参加	コミュニティ・スク・地域コミュニティとり、各学校の状況な地域での体験が育活動の中に取り	:の連携に !に応じた 舌動を学れ	こよ 様々 交教	究全組の関地域で	会」が中心 のコミュニ 更なる充実 コミュニテ の様々な	ある学ないでは、 まないでは、 まをはは組地し、 はのでいく。	、市内 ール取 かとする との結	H28 A	_
・嬉野市史の編纂	準備委員会を開係 史編纂の概要及び 員会の立ち上げる た。	び市史編	纂委	市史編纂	編集委員 基本計画	会を開催 を策定す	し、市史 る。	H28 — H27 —	H29年度から新規 - -

	基本目標② 嬉野市で働きたい"しごと"をつくる											
重要業績評価指標	目標 平成31年KPI	基 年度	<u>準値</u> 値	H27 値	H28 値	平原 値	戊29年度末実績 把握方法					
新規雇用者数【累計】	180人	十 <u>戌</u> H26	0人	0人 (0人)	11人 (11人)	28人 (17人)	実績 (企画政策課)					

(1)企業誘致ビル整備に	こよる新たな雇用	よる新たな雇用の創出									
重要業績評価指標	目標		準値		H27	H28		平成2	29年	度末実績	
主文术傾前圖品原	平成31年KPI	年度	ſ	直	値	値	値			把握方法	
企業誘致ビル整備による 新たな雇用の創出【累計】	150人	H26	0	人	2人 (2人)	5人 (3人)	12人 (7人)			実績 (企画政策課)	
具体的な施策	平成2	29年度の	進捗	状況	(平成30	年3月末	時点)			備考	
共体的な肥果	これまでの取組(進捗	、成果、課	題等)		今後の	取組予算	定	評値	西	加州 ~ つ	
・企業誘致ビルの整備	企業誘致ビルの基 進出協定を締結し 事務所において、	た企業だ 平成28年	が仮 ∈6月		31年度中 は雇用の			А		※評価欄について A:取組を実施した(実施済・実施中) B:取組を一部実施した C:方針、具体策等を検討中 D:未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価	
	から操業開始。(新あり)	新規地元	雇用	材1/こん	音加で凶	<b>ତ</b> ି	H28	Α	1 权6 些千汉07計圖		
	(S)						H27	В			
・佐賀県など関係機関と連携し	佐賀県との連携に 定を締結した企業 において、平成28	が仮事剤	务所	誘致活動を充実し、企業の誘				А			
ての誘致活動	業開始。(新規地)			を図る	ه لا			H28	Α	•	
								H27	Α		
・企業誘致支援制度の拡充	製造業に加え、事 の支援制度を追加			拡充した支援制度により、企業			り、企業	Α			
	<i>t</i> = 。	の誘致を図る。				H28	Α				
									Α		

■要業績評価指標	(2)地場を支える市内企	業への支援充実	<b>ミ及び</b> 地	也元为	学と	の連携					
市内企業支援拡充及び マッチング支援による新規 雇用者数【集計]	重要業績評価指標								平成2	29年	
15人		平成31年KPI	年度	1	直	値	値	値			把握方法
(本)	マッチング支援による新規	15人	-		_				(	(う∤	
これまでの取組(進捗、成果、課題等)   今後の取組予定   評価   日本での収集に対する支援制度	目体的が施策	平成2	29年度の	進捗	状況	(平成30:	年3月末	時点)			借 <b>老</b>
・市内企業に対する支援制度 の拡充         企業等誘致条例の奨励措置適 用条件に該当する企業の事業 所増設分に係る固定資産税免 除を継続している。         生産性向上特別措置法による 固定資産税の特例制度の導入 及び導入促進基本計画の策定 を行う。         日28 日 日27	大学はいる心水	これまでの取組(進捗	、成果、課	題等)		今後の	取組予算	定	評	価	n⊞ ₂⊃
・大都市圏でのUJIターン希望 者への相談会開設       移住支援事業と合わせて実施した。       佐賀県が取り組んでいるUJIターン希望者登録制度を活用し、充実を図る。       B         ・事業所への若者や女性、障がい者の雇用促進・啓発		用条件に該当する	る企業の	事業	固定	資産税の	特例制度	の導入	A		A: 取組を実施した(実施済・実施中) B: 取組を一部実施した C: 方針、具体策等を検討中 D: 未着手または見直しが必要
・大都市圏でのUJIターン希望 者への相談会開設       移住支援事業と合わせて実施した。       佐賀県が取り組んでいるUJI ターン希望者登録制度を活用し、充実を図る。       H28 B H27 B         ・事業所への若者や女性、障がい者の雇用促進・啓発       企業(事業所)へ地元雇用拡大、促進を依頼した。       古らなる雇用拡大を企業に働きかける。       B         ・大学と地域の関わりを強化することによる地元志向の意識醸成       「地(知)の拠点大学における地事業)」において、佐賀大学と連携し、4つの地域密着型プロジェクトを実施した。       「地(知)の拠点大学における地事業」を今後も推進していく。事業」を今後も推進していく。       A         ・インターンシップ受け入れ体制の強化       平成29年度は県主導の「ふるさとワーキングホリデー事業」が実施されなかった。(毎年、市内旅館への地元大学以外からのインターンシップ受入れを推進していく。       県事業及び「地(知)の拠点大学における地方創生推進事業(COC、COC + 事業)」等を活用し、インターンシップ受入れを推進していく。       B         ・・インターンシップ受入れあり)       場本の地元大学における地方創生推進事業(COC、COC + 事業)」が表における地方創生推進事業(COC、COC + 事業)」が表における地方創生が表における地方創生推進事業(COC、COC + 事業)」が表における地方創生推進事業(COC、COC + 事業)」が表における地方創生推進事業(COC、COC + 事業)」が表における地方創生推進事業(COC、COC + 事業)」が表における地方創生権進事業(COC、COC + 事業)が表における地方創生権進事業(COC、COC + 事業)が表における地方創生権進事業(COC、COC + 事業)が表における地方創生権進事業(COC、COC + 事業)が表における地方創生権進事業(COC、COC + 事業)が表における地方創生権進事業(COC、COC + 事業)が表における地方創生権進事業(COC、COC + 事業)が表によれた。(毎年のより、COC + 事業)が表における地方創生権進事業(COC、COC + 事業)が表における地方創生を対しませないます。(本のより、COC + 事業)が表によれた。(毎年のより、COC + 事業)が表によれた。(毎年の					を行う	5.			H28	В	
・大都市圏でのUJIターン希望 者への相談会開設       移住支援事業と合わせて実施した。       佐賀県が取り組みでいるUJIターン希望者登録制度を活用し、充実を図る。       H28 B H27 B         ・事業所への若者や女性、障がい者の雇用促進・啓発       企業(事業所)へ地元雇用拡大を企業に働きたいける。       古らなる雇用拡大を企業に働きたける。       H28 B H27 C         ・大学と地域の関わりを強化することによる地元志向の意識醸成       「地(知)の拠点大学における地事業)」において、佐賀大学と連携し、4つの地域密着型プロジェクトを実施した。       大創生推進事業(COC、COC+事業)」を今後も推進していく。 事業)」を今後も推進していく。       A         ・インターンシップ受け入れ体制の強化       平成29年度は県主導の「ふるさとワーキングホリデー事業」が実施されなかった。(毎年、市内旅館への地元大学以外からのインターンシップ受入れを推進していく。)、インターンシップ受入れを推進している。       B         ・・サテライト教室及び大学との共同研究の実施       佐賀女子短期大学オープンカレッジ・サテライト講座を実施しまするなどは、としていく。       H30年度もサテライト講座を実施しまするなどは、としていく。       A									H27	Α	
L、元美を図る。			合わせて乳	実施し	ターン	希望者登	登録制度:		В	1	
・事業所への若者や女性、障がい者の雇用促進・啓発       上では、保護を依頼した。       上では、保護を依頼した。       上では、保護を依頼した。       「地(知)の拠点大学における地方創生推進事業(COC、COC+事業)」において、佐賀大学と連携し、4つの地域密着型プロジェクトを実施した。       中成29年度は県主導の「ふるさとワーキングホリデー事業」が実施されなかった。(毎年、市内旅館への地元大学における地方創生推進事業とフーキングホリデー事業」が実施されなかった。(毎年、市内旅館への地元大学における地方創生推進事業とフーキングホリデー事業)が実施されなかった。(毎年、市内旅館への地元大学以外からのインターンシップ受入れを推入する)、本では、中では、中では、中では、中では、中では、中では、中では、中では、中では、中	在	/			し、充	実を図る	0		H28	В	
・事業所への若者や女性、障がい者の雇用促進・啓発       企業(事業所)へ地元雇用拡大を企業に働きかける。         128 B   127 C   128 B   127 C   128 B   127 C   128 B   127 C   128 B   128 B   127 C   128 B   128 B   128 B   127 C   128 B   128									H27	В	
H28 B   H27 C   H28 B   H27 C				拡			大を企業	(に働き	В	}	
・大学と地域の関わりを強化することによる地元志向の意識醸成       「地(知)の拠点大学における地方創生推進事業(COC、COC+事業)」において、佐賀大学と連携し、4つの地域密着型プロジェクトを実施した。       「地(知)の拠点大学における地方創生推進事業(COC、COC+事業)」を今後も推進している。       H28 A H27 C         ・インターンシップ受け入れ体制の強化       平成29年度は県主導の「ふるさとワーキングホリデー事業」が実施されなかった。 (毎年、市内旅館への地元大学以外からのインターンシップ受入れを推進事業(COC、COC+事業)」等を活用し、インターンシップ受入れを推進している。       B         ・サテライト教室及び大学との共同研究の実施       佐賀女子短期大学オープンカレッジ(サテライト講座)を実施した。       H30年度もサテライト講座を実施した。 は、200年度もサテライト講座を実施した。 は、200年度は、	1000 在7100 在 1000	八、促進と依頼し	/_0		3.17.	<b>5</b> 0			H28	В	
・大学と地域の関わりを強化することによる地元志向の意識醸成       方創生推進事業(COC、COC+事業)」において、佐賀大学と連携し、4つの地域密着型プロジェクトを実施した。       「地(知)の拠点大学における地方創生推進事業(COC、COC+事業)」を今後も推進していく。         128 A   127 C   128 B   128 B   128 B   127 C   128 B   12									H27	С	
ジェクトを実施した。       1120 A H27 C         ・インターンシップ受け入れ体制 の強化       平成29年度は県主導の「ふるさとワーキングホリデー事業」が実施されなかった。(毎年、市内旅館への地元大学以外からのインターンシップ受力、れた推り、インターンシップ受力、れた推進事業(COC、COC+事業)」等を活用し、インターンシップ受入れた推進していく。       B         ・サテライト教室及び大学との共同研究の実施       佐賀女子短期大学オープンカレッジ(サテライト講座)を実施した。       H30年度もサテライト講座を実施するなど大学との連携を継続。では、アングを表現していく。	ることによる地元志向の意識醸	方創生推進事業( 事業)」において、	COC、CC 佐賀大学	OC+	方創	生推進事	業(COC.	coc+	А	ı	
・インターンシップ受け入れ体制 の強化	成				事業)	」を今後:	も推進して	ていく。	H28	Α	
- インターンシップ受け入れ体制 を関係している。		フェクトを美心した	-0						H27	С	
以外からのインターンシップ受入れを推進していく。       H28 B         進していく。       H27 C    ・サテライト教室及び大学との共同研究の実施 佐賀女子短期大学オープンカレッジ(サテライト講座)を実施します。 はまずなど大学との連携を継続するなど大学との連携を継続を建せることである。		とワーキングホリー 実施されなかった	デー事業 。	」が	学に (COC	おける地フ C、COC+	方創生推 ├事業)」	進事業 等を活用	В		
- サテライト教室及び大学との共 同研究の実施    H30年度もサテライト講座を実施しるなど大学との連携を継	り強化	以外からのインタ					ンップ受力	へれを推	H28	В	
・サテライト教室及び大学との共 佐賀女子短期大学オープンカ H30年度もサテライト講座を実 レッジ(サテライト講座)を実施し 施するなど大学との連携を継 ほう はっぱい はっぱい はっぱい はっぱい はっぱい はっぱい はっぱい しょうしゅう しょう はっぱい しょうしゅう しょう しょうしゅう しょうしゅう しょう しょうしゅう しょう しょうしゅう しょうしゃ しょうしゅう しょうしゅう しょうしゅう しょうしゅう しょうしゃく しょうしゅう しょうしゅう しょうしゃく しょうしゅう しょう しょうしゅう しょう しょうしゅう しょうしゅう しょうしゅう しょうしゅう しょうしゅう しょう しょうしゅう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょ		入れあり) 			<u></u> 進し(	-0.10			H27	С	
	・サテライト教室及び大学との共同研究の実施		学オープ: 講座)を9	ンカ 実施し	施する	るなど大き	学との連携		Α	<b>L</b>	
	ᆙᄓᄢᇌᅐᄽᄌᆙᄖ ᆝ								H28	Α	
H27 C									H27	С	

(3)次世代を支える起業支援の推進											
重要業績評価指標	目標		準値	+	H27	H28		平成29	)年	度末実績	
+ 15 + 1\overline{1} + 1\overl	平成31年KPI	年度	1	直	値	値	値	-	<u> </u>	把握方法	
市が支援した起業件数【累計】	15件	1	,	-	1件 (1件)	3件 (2件)	5件 (2件)		き店舗活用事業実績 うれしの温泉観光課)		
具体的な施策	平成2	29年度の	進捗	状況	(平成30:	年3月末	時点)			備考	
共体的な心束	これまでの取組(進捗	、成果、課	題等)		今後の	取組予算	E)	評価	5	1/# 1/5	
・金融機関と連携した起業者への支援制度の創設	商工会で経営全船 ・融機関で資金調道 等の助言指導を行	市、商	支援事業 新工会、金 〔連携し、	融機関等	手一体と	А		※評価欄について A: 取組を実施した(実施済・実施中) B: 取組を一部実施した C: 方針、具体策等を検討中 D: 未着手または見直しが必要 下段は過程の評価			
の文族制度の創設	への支援を行って	画・資金調達等での支援を行う。					4	下校は四十尺の計画			
				)°			H27 A	4			
<ul><li>・大都市圏での相談会開設</li></ul>	移住支援事業と併た。	移住支援事業と併せて実施し				継続して大都市圏での相 等の事業に取り組むことで					
	/= 0			内での	の起業に	つなげたい	, <b>\</b> °	H28 E	3		
								H27 E	3		
・創業支援ワンストップ窓口の創設	創業支援事業計員 け、創業支援ワン 設置した、また。	ストップ系	こつを	係機		情報共有	を密に	В			
14144				) 行いながら、創業支援事業の充 実を図っていく。			- / 4/ / 1	H28 E	3		
								H27 E	3		

・新商品・新サービスの事業化及びその開発や販路拡大・物産振興事業や地場産品ものづくり支援事業により、市内中小企業事業者が行う新商品開発、販路開拓の支援を行った。  ・ECサイト「嬉野商店(仮称)」開設によるEC(ネット通販)やICTを活用した販売促進の支援を行った。  ・ECサイト「ないので、開設までには至っていない。  ECサイト構築は行われたが、運営方法、商品等の選定が確立されていないので、開設までには至っていない。  ECサイト開設に向け支援を行い、地場産品のみならず商店や商品の魅力をPRしている。  ・正のでは至っていない。  ・正のでは、新規顧客を得るための体験スペースの見せ方とがなるかと変元を含めた要元を含めた要元を含めたまで、ことを含めた要元を含めたまで、ことを含めた要元を含めたまで元を含む。	(4)魅力ある地域商工業	きの創造										
観光消費額   16.462百万円	重要業績評価指標				直				平成2	9年		
具体的な施策	観光消費額	•				14,797百万円		<u> </u>	5円	H2		
現本の取組(進捗、成果、課題等   今後の取組予定   評価	商店街の空き店舗率	14.2%	H26	19	.7%	19.6%	18.3%	17.7%	7% 商工		会商店街等実態調査	
	具体的な施策	平成29年度の進捗状況(平成30年3月末時点)										
- 商店街等活性化・交流拠点で	7CFF # 7 W 10 N	これまでの取組(進捗、成果、課題等) 今後の取組予定						評価	<b>E</b>			
#進に繋がった。	くり(魅力ある商業空間づくりや	, や商店街マルシェ	や商店街マルシェ等の支援を行の実施や商店街マルシェ等を行						Α		A:取組を実施した(実施済・実施中) B:取組を一部実施した C:方針、具体策等を検討中 D:未着手または見直しが必要	
・地域における「地域商業担い	ネットワーク構染 <i>)</i> 		,mm,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,					.—	H28	В		
・地域における「地域商業担い 表 1									H27	Α		
た。		融、税務等の個別	相談や	指導、	内で新	新たに創刻	業されるス	方につい	В			
・空き店舗活用による新規開業	于]		又抜を行	1.0					H28	В		
・空き店舗活用による新規開業 される方への支援を行った。 常数でサヤレンジショップ開設等 の商業者支援 される方への支援を行った。 内にない。 関店する店もあり空き店舗率は思ったほど減少していない。 関店する店もあり空き店舗率は思ったほど減少していない。 関係を表し、でき店舗活用による商業者 への開業支援を行う。 日28 A H27 A H28 B H27 A H28 B H28 B H28 A H28 B H28 A H28 B H28 A H28 B H28 A H28 B H28 B H28 A H28 B H28 B H28 A H28 B H28 A H28 B H28 B H28 B H28 A H28 A H28 B H28 B H28 A H28 B H28 A H28 B H28 B H28 B H28 B H28 A A A A A A A A A A A A A A A A A A A									H27	Α		
の商業者支援		補助金を活用し、 される方への支援	商店街で を行った	開業	いて、	商工会や	5商店街	と連携	А			
・新商品・新サービスの事業化 及びその開発や販路拡大支援  ・所内中小企業事業者が行う 新商品開発、販路開拓の支援 を行った。  「とこサイト「嬉野商店(仮称)」開設によるEC(ネット通販)やI CTを活用した販売促進の支援 を記されていないので、開設までには至っていない。  ・肥前吉田焼の商品開発や販路開充の支援  ・肥前吉田焼の商品開発や販路開充の支援  ・肥前吉田焼の商品開発や販路開充の支援  「するとができた。」  「おると、販売会等を開催し、デザインコンペにる商品開発や国内主要都市などで、展示会・販売会等を開催し、デザインコンペにも商品開発や国内主要都市などで、展示会・販売会等を開催し、「古田焼の活性化に繋によっていないのと、関連などを含めた窯元会館のリノベーションや販路開拓のための展示会への出店に対する支援を行う。  「おることができた」  「はることができた」  「はることができた」  「はることができた」  「はることができた」  「はることができた」  「はることができた」  「はなどのは、新規顧客を得るしたのの体験スペースの見せ方などを含めた窯元会館のリノベーションや販路開拓のための展示会への出店に対する支援を行う。」  「はることができた」  「はることが、「はないできた」  「はることが、「はないできた」  「はることが、「はないできた」  「はないできた」  「はないできた」  「はないできた」  「はないできた」  「はないできた」  「はないできた」  「はないできた」  「はないできた」  「はないできた」  「はないでもないできた」  「はないできた」  「はないでするといいできた」  「はないできた」  「はないいできた」  「はないいできた」  「はないいできた」  「はないいできた」  「はないいできた」  「はないいできた」  「はないいできた」  「はないいではないいではないではないではないいできた。  「はないいいではないいできた」  「はないいいできた」  「はないいいできた」  「はないいいいできた」  「はないいいいいできた」  「はないいいいいいいいいいいいいいいいいいいいにないいいいいいいいにはないいいいいがいいいいいいいいいい	の商業者支援	空き店舗率は思っ						)冏耒石				
・新商品・新サービスの事業化及びその開発や販路拡大支援 り、市内中小企業事業者が行う新商品開発、販路開拓の支援を行った。  ・ECサイト「嬉野商店(仮称)」開設によるEC(ネット通販)やICTを活用した販売促進の支援 ・肥前吉田焼の商品開発や販路開充ので、開設までには至っていない。  ・ECサイト構築は行われたが、運営方法、商品等の選定が確立されていないので、開設までには至っていない。  ・要があるさと財団の助成事業を活用し、デザインコンペにる商品開発や国内主要都市などで、展示会・販売会等を開催し、吉田焼の活性化に繋ばることができた。  「対象のを関係を、取り、関連を表し、対象のを表し、対象のを表し、対象の体験スペースの見せ方などを含めた案元会館のリノベーションや販路開拓のための展示会への出店に対する支援を行う。		+							11.27	, <b>.</b>		
#		場産品ものづくり り、市内中小企業	支援事業 事業者か	によ 「行う	開発·	開発や販路開拓等の事業をサ			A A			
<td blue;="" blue;<="" color:="" rowspan="2" td=""><td>及いての開光や駅路拡入又接</td><td></td><td>S開拓の3</td><td>支援</td><td></td><td></td><td>川の佐禾</td><td>の成工</td><td>H28</td><td>Α</td><td></td></td>	<td>及いての開光や駅路拡入又接</td> <td></td> <td>S開拓の3</td> <td>支援</td> <td></td> <td></td> <td>川の佐禾</td> <td>の成工</td> <td>H28</td> <td>Α</td> <td></td>	及いての開光や駅路拡入又接		S開拓の3	支援			川の佐禾	の成工	H28	Α	
・ECサイト「嬉野商店(仮称)」開設によるEC(ネット通販)やI では至っていないので、開設までには至っていない。  平成28年度よりふるさと財団の助成事業を活用し、デザインコンペにる商品開発や国内主要路開拓の支援  平成28年度よりふるさと財団の助成事業を活用し、デザインコンペにる商品開発や国内主要都市などで、展示会・販売会等を開催し、吉田焼の活性化に繋が、一ションや販路開拓のための展示会への出店に対する支援を行う。  「はることができた」  「はることができた」  「はることができた」  「は、商品等の選定が確立立法を行い、地場産品のみならず商店や商品の魅力をPRしていく。  「は、一、ロットのでは、新規顧客を得るための体験スペースの見せ方などを含めた窯元会館のリノベーションや販路開拓のための展示会への出店に対する支援を行う。			211 2728							H27	Α	
CTを活用した販売促進の支援       立されていないので、開設までには至っていない。       す商店や商品の魅力をPRしている。       H28 B         ・肥前吉田焼の商品開発や販路開拓の支援       平成28年度よりふるさと財団の助成事業を活用し、デザインコンペにる商品開発や国内主要都市などで、展示会・販売会等を開催し、吉田焼の活性化に繋ができた。       平成30年度は、新規顧客を得るための体験スペースの見せ方などを含めた窯元会館のリノベーションや販路開拓のための展示会への出店に対する支援を行う。       A		運営方法、商品等	の選定が	が確	支援	を行い、地	地場産品(	のみなら	В			
・肥前吉田焼の商品開発や販路開拓の支援 平成28年度よりふるさと財団の 助成事業を活用し、デザインコンペにる商品開発や国内主要 都市などで、展示会・販売会等を開催し、吉田焼の活性化に繋 はることができた 展示会への出店に対する支援 大会 などう		立られ ていないの		まで		占や商品	の魅力を	PRUT	H28	В		
・肥前吉田焼の商品開発や販路開拓の支援									H27	Α		
を開催し、吉田焼の活性化に繋 展示会への出店に対する支援 H28 A	・肥前吉田焼の商品開発や販 路開拓の支援	助成事業を活用し ンペにる商品開発	ノ、デザイ や国内3	ンコ 主要	ためてなどを	の体験ス <i>c</i> E含めた系	ペースの <sub>.</sub> ミ元会館(	見せ方 のリノ	А			
けることかできた。 を行う。 H27 A		を開催し、吉田焼の活性化に繋			展示会への出店に対する支援				H28	Α		
	げることができた。						H27	Α				

(5)うれしの茶の販路・	 需要開拓								
<b>新西娄</b> 建亚/西比梅	目標	基	準値		H27	H28	-	平成29年	F度末実績
重要業績評価指標	平成31年KPI	年度	ĺĺĺ	直	値	値	値		把握方法
海外販路開拓に向けた商 談成立件数【累計】	6件				0件 (0件)	1件 (1件)	7件 (6件)		出検討委員会報告 (ジェトロ佐賀)
西九州茶連における嬉野 市生産者の販売高	1,148,425千円	H26	H26 823,667千円 831,011千円 844,670千円 858,483千					一円西	九州茶連取扱実績
新たな接点の売り場への 「うれしの茶」出荷量	5.6トン	0.0144t 0.06t 0.07t				JA2	が茶販売事業所実績		
日什么大块	平成29年度の進捗状況(平成30年3月末時点)						時点)		/# #
具体的な施策	これまでの取組(進掛	。	題等)		今後の	取組予算	 定	評価	- 備考
・ジェトロ佐賀等関係機関と連携した海外販路開拓	残留農薬解決実態 防除暦の作成を ランドプロデュー・ れしの茶の特徴・	実施。また ナーを招き	:、ブ き、う	うれしの茶の特徴を十分理解し 活かしながら、シンガポールで テストマーケティングを実施す る。				Α	※評価欄について A: 取組を実施した(実施済・実施中) B: 取組を一部実施した C: 方針、具体策等を検討中 D: 未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
	し、シンガポール・			も茶の確値 ・ 展示	H28 A	1			
	ケティングを実施。 ケティングを実施。 等を行っていく。				五人版	H27 <b>A</b>	-		
・さが茶業所得向上対策事業 やうれしの茶優良品種導入事 業による高品質茶生産拡大の	被覆向上を図るた 入支援や茶園の めの茶苗優良品科	若返りを図	図るた			に向けて		А	
推進	実施。							H28 A	
								H27 A	
・「うれしの茶」の新付加価値化		でのライ	フ		これらの商品、カタログを展示会、商談会等へ提示し需要開拓			В	
による需要開拓	ショップでの販売. となる箱入りギフ			を図る。				H28 A	1
								H27 B	-
				光•交	流の活性	連携を図	内外の方	А	
向上	プンした。		-	ととも  る	i~17し、	ブランド化	ここ外の	H28 A	1
								H27 A	1
<ul><li>・企業との連携等によるコラボ</li><li>商品の開発</li></ul>	うれしの茶を活用ルーフレーバーグ	ブリーンテ		葉を清				А	
	1 <u></u>			む。				H28 <b>A</b>	]
								H27 A	

(6)活力ある担い手の育	う成と農業後継者の確保 では、								
手	目標	基	準値		H27	H28	3	平成29年	<b>丰度末実績</b>
重要業績評価指標 📙	平成31年KPI	年度		直	値	値	値		把握方法
任意営農組合の法人化 数【累計】	10組合	H26	1糸	自合	6組合 (5組合)	7組合 (1組合)	8組合 (1組合		営農組合連絡協議会名簿
営農組合の未組織地区 での組織設置数【累計】	2組織	H26	O糸	且織	1組織 (1組織)	1組織 (1組織)	1組織 (1組織		営農組合連絡協議会名簿
青年就農者の確保【累 計】	32人	1 496 1 1/4 1 11 11 1					18人 (6人)	一十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	就農給付金受給者名簿
	平成2	29年度の	進捗	状況	平成30	年3月末	時点)	•	
具体的な施策	これまでの取組(進捗					取組予5		評価	- 備考
・地域の農地・農業を守る"地域農業の担い手"として営農組 たH29年度には新たに1組織が 営農組織から法人化された。 援活動の推進 は出来のは、H28年 度末に1組織が 営農組織から法人化された。 (H29年度末)					援とともに 把握に努いての営 または営り ナて県、†	れている 中山間地め、中山『 豊組織か』 豊組織の ī、JAと協	地域の実間地域 らの法 組織化	Α	※評価欄について A:取組を実施した(実施済・実施中) B:取組を一部実施した C:方針、具体策等を検討中 D:未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
	· 呂宸和合: 10和#   · 農事組合法人: 8			援していく。				H28 <b>A</b>	
	及子和日本人	7121490						H27 A	]
・青年就農給付金等を活用した 農業後継者の確保	H29年度末の給付数は、終了者:7名名、休止者:1名、の計18名となって	、中止者 現受給者	ή:6	レーニ H31: 農予2 の候れ この他	ニングファ 2名、H32 定である/ 浦となって 也にも、こ	ff修開始される。 1:5名がする。 1:5名がる。 1:0る。 れまの連	生が、 可内に就 対対象者 司様、農	В	
				る候れ	甫者の掘	り起こしゃ		H28 B	
				実施し	していく。			博野市営農組合連絡協議会名祭 博野市営農組合連絡協議会名祭 博野市営農組合連絡協議会名祭 青年就農給付金受給者名祭 清年就農給付金受給者名祭 ※評価欄について A: 取組を実施した(実施済・3・2・2・2・2・2・2・2・2・2・2・2・2・2・2・2・2・2・2・	

・旅館等の宿泊施設と連携した 都市農村交流事業の取組推進 H29年度において具体的な動き はなかった。 都市農村交流の優良事例等の 情報収集と関連団体との連携を 図り推進していく。 H28 D	(7)"うれしのブランド" <sup>-</sup>	れしのブランド"づくりと"稼ぐ"農業への取組									
	重要業績評価指煙								平成	29年	
150ha	主女术順計画沿标	平成31年KPI	年度	ſ	直	値	値	値			把握方法
日本の		3種類	H26	0種	種類						
世界		150ha	H26	117	7ha						水田台帳
具体的な施策		10人	11)							関係	
- 農業団体と連携し、女性及び	目什的小妆饰	平成2	29年度の	進捗	状況	(平成30	年3月末	時点)			/# #Z
- 農業団体と連携し、女性及び	具体的な肥束	これまでの取組(進捗	b、成果、課	題等)		今後の	取組予算	Ē	評	価	偏 考
#28 B   H27 B   H28 B   H27 B   H28 B   H27 B   H28 B   H27 B   H28 D   H28	高齢者による農作業でも作付	ナ JAICよる辰多でX						ヒの連携	E	3	A: 取組を実施した(実施済・実施中) B: 取組を一部実施した C: 方針、具体策等を検討中 D: 未着手または見直しが必要
・実需者からの需要が高く、主 食用米より高収益の酒造用米 の作付面積の増加		さ、且つ、収益性の高い作日   <sub>された</sub>   としなから推進を図る。							H28	В	
・実需者からの需要が高く、主 食用米より高収益の酒造用米 の作付面積の増加								H27	В		
#28 日		□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	がの華」「実需者の	「レイ )要望	酒米の品質向上と安定供給を						
・洒造用米作付けに際して、農業者等が取り組みやすい環境では上できた。  ・透り及び支援  ・高次産業化推進のための各種があり組みやすい環境ではなかった。  ・6次産業化推進のための各種があります。  ・6次産業化推進のための各種があります。  ・6次産業化推進のための各種があります。  ・6次産業化推進のための各種があります。  ・6次産業化の取組を推進している。  ・ 国及び県と連携しながら、農業者等からの相談に対応し、6次産業化への取組を推進している。  ・ 国、県並びに関係団体と連携したいて具体的な動きはなかった。  ・ 国人の情報提供  ・ 大変において具体的な動きがある情報を収集し推進している。  ・ 国人の情報を収集し推進している。  ・ 旅館等の宿泊施設と連携したおいて具体的な動きをはなかった。  ・ 旅館等の宿泊施設と連携したおいて具体的な動きをはなかった。  ・ 旅館等の宿泊施設と連携したおいて具体的な動きをである。  ・ 旅館等の宿泊施設と連携したおいて具体的な動きではなかった。						こめの支持	爰を推進(	してい	H28	Α	
・ 洒造用米作付けに際して、農業者等が取り組みやすい環境「山田錦」を生産する団体の組織化をJAとの連携により支援していく。					10				H27	Α	
・6次産業化推進のための各種 H29年度において具体的な動き はなかった。  国及び県と連携しながら、農業 者等からの相談に対応し、6次 産業化への取組を推進してい く。  ・国、県並びに関係団体と連携 して助成制度活用等の農業者 いなかった。  ・国、開立びに関係団体と連携 はなかった。  「H28 D H27 D D D D D D D D D D D D D D D D D D D	業者等が取り組みやすい環境	₹「山田錦」を生産で	する団体の	の組	するか	こめに、生	産する団	体の充	<i>A</i>	۸	
- 6次産業化推進のための各種	フへり及び又版	てきた。			援していく。				H28	Α	
・ 6次産業化推進のための各種 研修会やセミナーの案内       H29年度において具体的な動きはなかった。       古等からの相談に対応し、6次産業化への取組を推進している。       H28 D         ・国、県並びに関係団体と連携して助成制度活用等の農業者への情報提供       H29年度において具体的な動きはなかった。       国及び県と連携しながら、先進的な事例等の情報を収集し推進している。       H28 D         ・旅館等の宿泊施設と連携した都市農村交流事業の取組推進       H29年度において具体的な動きはなかった。       都市農村交流の優良事例等の情報収集と関連団体との連携を図り推進している。       D										Α	
			具体的な	動き	者等からの相談に対応し、6次			し、6次		)	
- 国、県並びに関係団体と連携して助成制度活用等の農業者への情報提供	別修会 (2017年の条例	14/4/1/2/20				IL, CODAX	祖で批准	C CU.	H28	D	
・国、県並びに関係団体と連携して助成制度活用等の農業者への情報提供									H27	D	
・旅館等の宿泊施設と連携した 都市農村交流事業の取組推進       H29年度において具体的な動き はなかった。       都市農村交流の優良事例等の 情報収集と関連団体との連携を 図り推進していく。       D		HZ9平及にあいて	具体的な	動き					С	)	
・旅館等の宿泊施設と連携した 都市農村交流の優良事例等の 情報収集と関連団体との連携を 図り推進していく。	への情報提供	はなかつだ。							H28	D	
・旅館等の宿泊施設と連携した 都市農村交流事業の取組推進 はなかった。									H27	D	
図り推進している。 H28 D			.具体的な	動き	情報」	収集と関連	連団体と(			)	
	都市農村交流事業の取組推進				凶り打 	匪進してい	١٧.		H28	D	
H27 D									H27	D	

基本	国標③ 嬉野市	で結婚	·出産·子	育てした	こい"まな	ら"をつくる	
重要業績評価指標	目標	基	:準値	H27	H28	平成	29年度末実績
里安未模計価指標	平成31年KPI	年度	値	値	値	値	把握方法
出生数【累計】	1,100人	H26	178人	365人 (187人)	559人 (194人)	7 <b>46人</b> (187人)	住民基本台帳人口
合計特殊出生率	1.75			(1.43)	1.57	1.57	期間合計特殊出生率

(1)結婚支援の充実									
┃ ┃  重要業績評価指標  ┣	目標		準値	+	H27	H28		平成29	年度末実績
二〇八八五日   四日   八	平成31年KPI	年度	<u> </u>	直	値	値	値	-+	把握方法
出会いの場における カップル成立数【累計】	80組	H26	12	2組	<b>22組</b> (10組)	37組 (15組)	57組 (20組		実績 (市民協働推進課)
結婚支援事業登録者数	150人	H26	78	3人	60人 (-18人)	83人 (23人)	93人 (10人		結婚支援事業実績 (市民協働推進課)
結婚を応援する事業所 登録数	30事業所	H26	0事	業所		2事業所 (2事業所)	4事業 (2事業)		実績 (市民協働推進課)
具体的な施策	平成29年度の進捗状況(平成30年3月末時点)					時点)			
共体的な肥泉	これまでの取組(進捌	、成果、課	題等)		今後の	取組予算	Ē	評価	
・独身者の魅力向上を図りつつ、男女の出会いの場の創出	独身男女を対象とケーション能力ア期的に実施し、出てのデイナーパーバスツアー(1回)また、相談員によ実施、佐賀県主催	ップ講座を 会いの場 -ティ(2回 を開催した るお見合	を定 とし か た。 いの	め、約タ、近	5婚支援村 隣市町の セミナーを と連携強	婚を支援 目談員や う支援者を 実施し、 食化を図る	サポー 全め支 スキル 。男女	А	※評価欄について A:取組を実施した(実施済・実施中) B:取組を一部実施した C:方針、具体策等を検討中 D:未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
	実施、佐貞宗工作 サポートセンターを 催した。			の出会いの場の提供、お見合い・セミナー等を実施する。				H28 A	<u> </u>
・結婚支援事業の情報発信を 強化し、独身者の結婚に対する	婚活セミナーや出 トの開催について 援事業所のチラシ	、登録者	や応	これまでの取り組みを継続しつ				Α	
機運の醸成	回覧、市HPの掲載 図った。				(A)	, ,,,,,,	7 (15) 4% 7	H28 A	
  -  ・結婚支援相談員の配置	結婚支援相談員で 支援希望者の登録	録手続き	や登		これまでの取り組みを継続す		፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟	Α	
	録者同士のお見れた。	合いを実力	他し	る。	<b>ం</b> .			H28 A	_
- 男性向けコミュニケーション能	結婚を希望する独 象にした心理学も クショップを計8回	ミナーや	ワー	コミュ	ニケーシ	ョン能力で	アップの	А	
カアップ講座の開催	65人が参加した。 はその内2回累計			ための	の講座を	定期的に	行う。	H28 A	. ]
	だった。	17人00多	≽ /J∐					H27 <b>A</b>	. ]
・市内のまちづくり団体等が実	婚活イベント会社			まちご	づくり団体 ベントにつ	等が実施いて、開	する婚	Α	
施する様々な婚活イベントへの 積極的な支援	するイベント等に、 周知を登録者へ行		<b>퀴催</b>	等の	<mark>劦力</mark> 依頼	があった知等を行	場合は、	H28 A	<u>`</u>
・雇用している独身者の結婚活動を積極的に応援する事業所						を訪問し		A	
の登録制度を新設し、事業所、	「東川草())・泉・田・夕・オート(今)・萩())・荘 ――			の説明を行い、登録の推進を図る。 			<b>匪進を図</b>	H28 A	<u>-</u>
			16					H27 C	

(2)妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援									
重要業績評価指標	目標		準値		H27	H28		平成29年	度末実績
主女术順引圖沿标	平成31年KPI	年度	ſ	直	値	値	値		把握方法
不妊治療費助成件数	30件	H26	27	'件	24件	24件	24件		補助助成実績 (健康づくり課)
不育症治療費助成件数	3件	3件 H26 0件 0件 0件 0件							補助助成実績 (健康づくり課)
訪問指導·健康相談(妊産 婦、乳幼児、学童)	4,900人	00人 H26 4,605人 4,590人 2,696人 3,155丿							域保健事業報告 母子保健報告)
具体的な施策	平成2	29年度の	進捗	状況	(平成30	年3月末	時点)	•	備考
共体的な地外	これまでの取組(進捗	大成果、課	題等)		今後の	取組予算	定	評価	
· 不妊治療(体外受精·顕微授精)、不育症治療費助成制度の実施		的負担を 助成金に 。そのこ。	軽減 加え とで	ちらも る夫女	おり、、耳帚が多い	継続申請 カ成を望ま ため、今後	А	※評価欄について A:取組を実施した(実施済・実施中) B:取組を一部実施した C:方針、具体策等を検討中 D:未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価	
	が、晩婚化が阻害要因になって			続き行う。				H28 A	
	いる。							H27 <b>A</b>	
小児の第1次救急医療体制の 確保及び住民に対する救急医 療の普及啓発を図るため、杵藤 ・おいる毎日の夜間小児救急 ・特別では、一般では、一般では、一般ででは、一般ででは、一般では、一般では、一般では、					子活を 金を拠	Α			
	嬉野市の平成29年度実績は 129人の利用があった。							H28 A H27 A	
・かかりつけ医の定着を図ると ともに、高次医療機関である嬉 野医療センターと連携した医療	かかりづけ 医の足			医師会とも協議をした上で、嬉 野医療センターと連携し、医療 支援体制の確立をしていく。				С	
支援体制の整備促進	題もめる。			义]友	本市リリンカル田	77 C C	· ``\ o	H28 C	
								H27 C	
・妊娠出産期から、乳幼児・学 ・妊娠出産期から、乳幼児・学 童期の子育でに至るまでの相 談支援の充実 ・対とは言えない。 ・対とは言えない。 ・大きなはしているも と連携し、また、「引 ・大きなであり ・大きなであり ・大きなである。 ・大きなであり ・大きなであり ・大きなであり ・大きなであり ・大きなであり ・大きなであり ・大きなである。 ・大きなであり ・大きなであり ・大きなであり ・大きなであり ・大きなであり ・大きなであり ・大きなである。 ・大きなであり ・大きなである。 ・大きなである。 ・大きなである。 ・大きなである。 ・大きない。 ・大						、「子育て - 」・「こど <sup>:</sup>	世代包もセン	В	
談文振の允美				りたい。				H28 B	
								H27 B	

重要素精評価指標   日標   基準値   日27   1/28   平成29年度未要積   平成31年KPI   年度   値   値   値   値   値   他担任方法   担任方法   担任方法   行きて支援を開かった。	(3)安心して子どもを育っ	てられる環境の確保									
	重要業績評価指揮								平成	29年	
## 151人 H25 9人 44人 61人 64人 利用者実積(他市前利用者)	主女未慎計圖汨汨	平成31年KPI	年度	ſ	直	値	値	値			把握方法
おいて、	延長保育事業	76人	H25	46	入	44人	46人	48人		(子	
	病児·病後児保育事業	151人	H25	H25 9人 44人 61人 64人							含)
現体的な施策		200人	H25	17	7人	87人	80人	171人	,	(子	
具体的な施策		70.0以上 H23 53.7 - 61.1% 61.1%							<u> </u>		
これまでの取組進移、成果、課題等)  ・「こどもセンター」整備による 出産から子育て、教育に至るまでの様々な相談への対応  ・・病児・病後児保育、延長保育、一時預かり等、保護者の要とに対える保育サービスの充実や到幼児や障がい児の保育の場所の確保・世の子川の場所で内容について検討した。という、現児保育の需要が前年度に比別な保育の大変に対える保育サービスの充実を受け入れた。また、他の事業にした、要素を対していて、では、対した。また、特別と解解のため、現別保育を実施する武雄市と協定を経験して、次域に増加上に対し、現別保育を実施する武雄市と協定を経験して、次域に増加上にが、認可保育所での取組みとして、学室クラブ室専用でして、の政組みとして、学室クラブ室専用・サービスを提供できた。  「維野市子育で支援をひきった。」では、観響者の二一人に治力を関すや一ビスを提供できた。 「特別市子育で支援をした。これ、他の事業にして、学室クラブ室専用・サービスを提供できた。」でも、情報提供による育児不安や孤立化の緩和・おり、保育が、事業の関心に対する。また、共和に対するといのような、情報提供による育児不安や孤立化の緩和・活発に行うことができた。また、子育でマ同士の交流や情報交換・活発に行うことができた。また、毎年の別に対するの。上曜日又は日曜日も開設する。上間日又は日曜日も開設する。上記日又は日曜日も開設する。上記日又は日曜日も開設する。上記日又は日曜日も開設する。上記日又は日曜日も開設する。上記日又は日曜日も開設する。上記日又は日曜日も開設する。上記日又は日曜日も開設する。上記日又は日曜日も開設する。上記日又は日曜日も開設する。上記日、日本のの資質向上が修会員を経験する。上記日、日本のの資質の企業を経験する。上記日、日本の財産を経験する。上記日、日本の財産に無料利用券を交付する。上記日、日本の財産に無料利用券を交付する。上記日、日本の財産に無料利用券を交付する。上記日、日本の財産に無料利用券を交付する。「記書 本日 日本		平成29年度の進捗状況(平成30年3月末時点)									,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
- 「こどもセンター」整備による にともセンター整備検討委員会と から子育で、教育に至るまでの様々な相談への対応 はたい。	具体的な施策	これまでの取組(進捗	步、成果、課	題等)		今後の	取組予定	ŧ	評	価	備考
・病児・病後児保育、延長保育、一時預かり等、保護者の要望に沿える保育サービスの充実と対したが、認可保育所で締結し、保護者の利便性の向上を受け入れた。また、他の事業についても、保護者の一大に治力を、対しても、保護者の一大に治力を、対しても、保護者の一大に治力を、対しても、保護者の一大に治力を、対しても、保護者の一大に治力を、対しても、保護者の一大に治力を、対しても、保護者の一大に治力を、対しても、保護者の一大に治力を、対しても、保護者の一大に治力を、対しても、保護者の一大に治力を、対しても、保護者の一大に治力を、対しても、保護者の一大に治力を、対しても、保護者の一大に治力を、対しても、保護者の一大に治力を、対しても、保護者の一大に治力を、対しても、保護者の一大に治力を、対しても、保護者の一大に対して、学童クラブ室専用を支援、地・大学育で支援、地・大学育で支援、地・大学育で支援、地・大学育で支援、地・大学育で支援、地・大学育で大学、対し、主曜日又は日曜日も開設する。  「提野市子育で支援・センター」を子育で大学に対して、対して、また、子育で、ででは、また、子育で、ででは、また、子育で、ででは、また、子育で、ででは、また、各のの表別を、は、対し、保育所、学童の開所時間をある。また、利便性の向上を図が、上曜日又は日曜日も開設する、おは、日曜日も開設する、おは、日曜日も開設する、おは、日曜日も開設する、おは、日曜日も開設する、会議の保証を入り、上曜日又は日曜日も開設する。とは、日曜日も開設する、会議の保証を入り、日曜日は、日曜日も開設する。とは、日曜日は、日曜日も開設する。とは、日曜日は、日曜日は、日曜日は、日曜日は、日曜日は、日曜日は、日曜日は、日曜	出産から子育て、教育に至るま	立ち上げ、委員会に センター」の場所や	構検討委員会」を こおいて「こども 場内のについて検討					F	Α	A: 取組を実施した(実施済・実施中) B: 取組を一部実施した C: 方針、具体策等を検討中 D:未着手または見直しが必要	
・病児・病後児保育、延長保育、一時預かり等、保護者の要型に沿える保育サービスの充実を受け入れた。また、他の事業についても、保護者の大力化た。とのの表すな、特機児童解消のための取組みとして、学童クラブ室専用機を整備する。また、特機児童解消のための取組みとして、学童クラブ室専用機を整備する。  「維護者の二一ズに沿った保育・ないで、学童クラブ室専用機を整備する。 「連撃市子育で支援センターのそうで大変投資での行事も増やし、多くの子は大力をは、また、子育で支援拠点事業の周知に努か加立化の緩和を図った。また、子育で支援拠点事業の周知に努力を加速と位置付けし、塩間や赤ちゃん相談等を継続し、地度不可での行事も増やし、多くの子は子育で支援拠点事業の周知に努力を加立化の緩和を図った。また、子育で中の保護者に対して育児不安か加立化の緩和を図った。また、子育で大理拠点が情報交換も活発に行うことができた。 「連撃者の必要を図るため、養成講座・対策に行うことができた。を預かり、保育所・学童の開所時間を登録の促進及び利用料金の助成を超続た、保育が固難な児童の一時的ながいた。今年度から利用料金の助成を超続た、保育が図れた。今年度から利用料金の助成を超続た、保育が図れた。今年度から利用料金の助成を超続た、保育が図れた。今年度から利用料金の助成を超続力はできた。また、各商上が図れた。今年度から利用料金の助成を超れた。今年度から利用料金が増加した。ととし、利用者が増加した。ととし、利用者が増加した。ととし、利用者が増加した。ととし、利用者が増加した。ととし、利用者が増加した。ととし、利用者が増加した。ととり観家庭医療等により生活の家にに対けていることを受け、より取り組みの単立のために利用を接続付金事業により生活の家定に対けていることを受け、より取り組みの単立のために利用を接続付金事業により生活の家定に対し、し、しとり観家庭の単立のために利用を接続付金事業により生活の家定に対し、し、しとり観家庭医療等の表に対けなどの主意を表し、し、しとり観家庭医療が最悪課題を通ら行きた。また、母子できた。また、母子できた。また、母子できた。また、母子できた。また、母子できた。また、母子できた。また、母子できた。また、母子できた。たち、母子できた。また、母子できた。母子できた。また、母子できた。また、母子できた。母子できた。また、母子できた。										В	
ス大幅に増加したが、認可保育所、特別が保育で実施での向上を 等に入える保育サービスの充実 や乳幼児や障がい児の保育の 場の確保  ・地域子育で支援センターの充 育サービスを提供できた。  「韓野市子育で支援センター」を子 育て支援の拠点と位置付けし、塩 間地区での行事も増やし、多の子 を表したの保護者に対して育りで表す。 で独立化の緩和を図った。また、子 で大幅に増加した。その子文子自立を 育サービスを提供できた。  利用促進を図るため、10カ月児訪問や赤ちゃん相談等を継続し、地 時で表するな人相談等を継続し、地 方で支援の拠点と位置付けし、塩 間や赤ちゃん相談等を継続し、地 方で支援の拠点と位置付けし、塩 間や赤ちゃん相談等を継続し、地 方で大字の保護者に対して育り元・メーター が加立化の緩和を図った。また、子 行発に行うことができた。  ・ファミリー・サポート・センター の充実を図るため、養成講座や 預かり、保育所・学童の開所時間を 超えた保育に対応できた。また、各 超えた保育に対応できた。また、各 を選の促進を図るため、担の年度は更なる利用 金を取り利用料金の前の表す。 を通過によりサポーターの質の自上が優別も使いとしましましましましましましましましましましましましましましましましましましま									H27	С	
・地域子育で支援センターの充育で支援の拠点と位置付けし、塩間地区での行事も増やし、多くの子育で支援拠点事業の周知に努力です。	育、一時預かり等、保護者の要望に沿える保育サービスの充実 や乳幼児や障がい児の保育の	べ大幅に増加したがにおいて保育士をがを受け入れた。またいても、保護者の二	べ大幅に増加したが、認可保育所において保育士を加配し障がい児を受け入れた。また、他の事業についても、保護者のニーズに沿った保根を放出する。また、特機児童解消のためいても、保護者のニーズに沿った保根を表表して、学童クラブ室専用					H28	Α		
・地域子育て支援センターの充実、相談や交流、情報提供による育児不安や孤立化の緩和を図った。また、子育てマ保護者に対して育児不安や孤立化の緩和を図った。また、子育てママ同士の交流や情報交換も、土曜日又は日曜日も開設する。		+							11127		
・ファミリー・サポート・センターの充実を図るため、養成講座や 預がり、保育所・学童の開所時間を 超えた保育に対応できた。また、各 福護習会によりサポーターの質の 向上が図れた。今年度から利用料金のも成を継続する。H30年度は更なる利用 促進及び制度周知を図るため、出生届けの際に無料利用券を交付する。 H28 A H27 A	実、相談や交流、情報提供によ	育て支援の拠点と付出地区での行事も 育て中の保護者に や孤立化の緩和を 育てママ同士の交流	立置付けし 増やし、多 対して育児 図った。ま 流や情報3	を選付けし、塩 増やし、多くの子 対して育児不安 図った。また、子 でも情報交換も では、100万月元初 間や赤ちゃん相談等を継続し、地 域子育て支援拠点事業の周知に努 める。また、利便性の向上を図るた め、土曜日又は日曜日も開設す				H28	Α		
・ファミリー・サポート・センターの充実を図るため、養成講座や研修による会員増、サービス利用の促進 用の促進  ・ひとり親家庭の自立に向けた意欲を高め、安心して子育でと就業を両立できるための支援  ・ひとり親家庭の自立に向けた意欲を高め、安心して子育でと就業を両立できるための支援  ・ひとり親家庭の自立に向けた表別の成びひとり親子育で世帯応援給付金事業により生活の安定に寄与できた。また、母子父子自立支援員等の就業支援相談により、自立支援事業の利用に繋がった。  「関かり、保育所・学童の開所時間を登録の促進及び利用料金の助成を経続する。H30年度は更なる利用促進及び制度周知を図るため、出生届けの際に無料利用券を交付する。  ・ひとり親家庭の自立に向けた表別の成びひとり親子育で世帯応援給付金事業の資格の範囲が広がったことを受け、より密に母子父子自立支援員と連携し、ひとり親の自立のために利用を促し、制度の周知を図っていく。  ・ ひとり親の自立のために利用を促し、制度の周知を図っていく。		1							H27	Α	
利用者が増加した。  ・ひとり親家庭の自立に向けた意欲を高め、安心して子育でと就業を両立できるための支援 に支援事業の利用に繋がった。  ・ひとり親家庭の自立に向けた意は、	の充実を図るため、養成講座や 研修による会員増、サービス利	預かり、保育所・学 超えた保育に対応 種講習会によりサ7 向上が図れた。今年	童の開所ほ できた。また ポーターの 手度から利	開所時間を た。また、各 多一の質の から利用料 生属けの際に無料利用券を交付す				Å	۹		
・ひとり親家庭の自立に向けた 意欲を高め、安心して子育てと 就業を両立できるための支援 児童扶養手当、ひとり親家庭医療 費助成及びひとり親子育て世帯応 援給付金事業により生活の安定に 寄与できた。また、母子父子自立支 援員等の就業支援相談により、自 立支援事業の利用に繋がった。				このグ	る。				H28	Α	
・ひとり親家庭の自立に向けた 意欲を高め、安心して子育てと 就業を両立できるための支援		<u> </u>							H27	Α	
	意欲を高め、安心して子育てと	費助成及びひとり第 援給付金事業による 寄与できた。また、 援員等の就業支援	費助成及びひとり親子育て世帯応 等職業訓練促進給付金事業の資援給付金事業により生活の安定に 格の範囲が広がったことを受け、よ寄与できた。また、母子父子自立支援し、ひとり親の自立のために利用を し、ひとり親の自立のために利用を						P	4	
H27 A								いく。	H28	Α	
								H27	Α		

具体的な施策	平成29年度の進捗	状況(平成30年3月末時点)		· 備考
共体的は肥束	これまでの取組(進捗、成果、課題等)	今後の取組予定	評価	1佣 右
・児童虐待の予防と早期発見、 早期対応に努めるため、支援体 制の強化	家庭相談員を中心に、学校、保育 園、児童相談所、警察等の関係機 関との連携を図っている。ケースに 合わせた会議の開催により、関係 機関との情報共有が充実してきて	関係機関と連携を取りながら、必要 に応じて個別ケース会議等を行い、 継続した支援を行う。アセスメント・ プランニングシートを取り入れてい	Α	※評価欄について A:取組を実施した(実施済・実施中) B:取組を一部実施した C:方針、具体策等を検討中 D:未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
	いる。	0	H28 <b>A</b>	
			H27 <b>A</b>	
・ 幼児教育・保育の充実を図る ため、カウンセラー(チャイルド カウンセラー)の配置による相 談体制の強化	今年度から予算を確保し、早期支援コーディネーターを配置した。発達段階の早期から支援体制を整備し、就学移行期に情報共有の引継	今後も引き続き早期支援コーディ ネーターを配置し、教育部局との連 携を図りながら支援体制の充実を 目指す。	Α	
成体 (中間 0万)虫 16	ぎがスムーズに行えた。			
			H27 D	
・ワークライフバランスの推進 のため県等と連携した啓発セミナー等の実施並びに男女共同 参画意識の向上のための情報	テスト入賞作品展示を庁舎内で6日	市内の男女共同参画推進団体と連携し、これまでの講演会・映写会を 今後も実施し、男女共同参画社会 の推進を図る。 市報、市ホームページ、行政放送 や広報媒体を通じて、地域での啓	Α	
発信等の強化		発活動やイベントの情報等を発信	H28 A	
	の参画を従りためのカールが陥り。	する。	H27 A	
・女性が社会進出するために 必要な女性起業支援セミナーの 開催による女性の起業・再就職の促進	国・県からの情報を市ホームページ に掲載したり、地域コミュニティヘチ ラシを配布した。 うれしの温泉観光課を通じてチラシ を配布し事業所への啓発した。	今年度も国・県からの情報を提供していく。	A H28 A	
			H27 B	

重要業績評価指標	(4)特色ある教育の推進と確かな学力の育成						
全国学力学習状況調査 全教科、市の平均 を全国平均以上							
全国学力学習状況調査 全類科、市の平均 を全国平均以上  全類科、市の平均 を全国平均以上  100% H26 73% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 10	主女木帜计叫归际						
電子黒板【累計】 100% H26 73% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 10							
電子黒板[累計] 100%   H26   73%   100%							
選集							
具体的な施策							
- 小学校6年生から中学校3年生までの取組(進捗、成果、課題等) - 小学校6年生から中学校3年生までの4年間で使用する『嬉野市副読本「生きるカノの教科書を活用した学習 中成27年度に改訂版を作成し、小学校 第一次 学生から指導を行っている。小学校 8年生での授業研究会にも取り組ん 8株生での授業研究会にも取り組ん 2を当まりの作品 2を当まりが、2を当まりが、2を当まりが、2を引きまります。 1位 1 1位 2 1位 2 1位 2 1位 2 1位 2 1位 2 1位	平成29年度の進捗状況(平成30年3月末時点)						
・小学校6年生から甲学校3年生生までの4年目で使用する『韓野市副読本「生きる力」の教科書が開発力、自己的情報を行っている。小学校 学生から指導を行っている。小学校 学生から指導を行っている。小学校 教法の計版)の活用による自己 だ。	共体的な他束						
・ 一	Eまでの4年間で使用する『嬉 野市副読本「生きる力」の教科 書』(改訂版)の活用による自 な決力、自己防衛力等の育成						
・小学校3年生に国語辞典を支 給し、活用させることによる語彙 カ等の育成  ・吉田小・中学校を指定校とし、よりよい小中一貫教育の在り方に関する研究の推進  ・校長のマネジメント力強化(校長先生の知恵袋事業)  ・校長のマネジメント力強化(校長先生の知恵袋事業)  ・早期からの教育相談等による  ・中期からの教育相談等による  ・中期からの教育相談等による  ・小学校3年生に国語辞典及び (付箋紙を支給している。(入学式の際に着きの活用能力を高め、学力向上につなげていく。)  ・古田小・中学校を指定校とし、市教育委員会が指定し、9年間を見通した教育の研究指定事業は表別でした。その成果を市内全教職員に発表した。  ・校長のアイデアによる次年度事業のプレゼンテーションを審査し、特色のある取組に対してより多くの事業を評価し、学力の向上、体験活動の充実、さらに特色ある学校づくりを進めていく。  ・子育て支援課との協働により、早期支援コーディネーターを配置し、市長部局の関係各課、特別支援学 今後も子育て支援課と協働で早期	・学校塾」による学習習慣の気 feと、中学校における「放課後						
・小学校3年生に国語辞典を支 給し、活用させることによる語彙 力等の育成 ・吉田小・中学校を指定校とし、よりよい小中一貫教育の在り方 に関する研究の推進 ・校長のマネジメント力強化(校長先生の知恵袋事業) ・早期からの教育相談等による ・早期からの教育相談等による ・早期からの教育相談等による たが実施で支給している。(入学式の際に贈呈式を行っている) ・古田小・中学校を小中連携教育の研究指定事業は を対した。の辞書の活用能力を高め、学力向上につなげていく。 ・古田小・中学校を指定校として市教育委員会が指定し、9年間を見通した教育の在り方の研究を行い、その成果を市内全教職員に発表した。 ・校長のアイデアによる次年度事業のプレゼンテーションを審査し、特色のある取組に対してより多くの予算を配当した。このことで校長による積極的な事業推進がなされている。 ・中期からの教育相談等による ・中期からの教育相談等による。 ・中期からの教育相談等による。 ・「中期からの教育相談等による。」 ・「中期があり、「中期からの教育のにより、「中期があり、「中期があり、「中間が	<b>巻学力の向上</b>						
プラの育成 際に贈呈式を行っている) 上につなげていく。 H28 A H27 A H27 A  ・吉田小・中学校を指定校とし、よりよい小中一貫教育の在り方に関する研究の推進 方の研究を行い、その成果を市内全教職員に発表した。 A H28 A H27 A  ・校長のマネジメント力強化(校長・生の知恵袋事業) 名校長のアイデアによる次年度事業のプレゼンテーションを審査し、特色のある取組に対してより多くの予算を配当した。このことで校長による積極的な事業推進がなされている。 A H28 A H28 A H27 A  ・早期からの教育相談等による 子育て支援課との協働により、早期支援コーディネーターを配置し、市長部局の関係各課、特別支援学 今後も子育て支援課と協働で早期							
・吉田小・中学校を指定校とし、常語ではいい中のでは、では、100 を指定校として、では、100 を指定校として、では、100 を指定校として、では、100 を指定校として、では、100 を指定が、100 を指定が、100 を指定が、100 を指定し、9年間を見通した教育の在り方の研究を行い、その成果を市内全教職員に発表した。  ・校長のマネジメント力強化(校長のアイデアによる次年度事業のプレゼンテーションを審査し、特色のある取組に対してより多くの予算を配当した。このことで校長による積極的な事業推進がなされている。  ・科28 A H28 A							
・吉田小・中学校を指定校とし、 よりよい小中一貫教育の在り方 に関する研究の推進  空報職員に発表した。  一校長のマネジメント力強化(校長先生の知恵袋事業)  本校長のマネジメント力強化(校長先生の知恵袋事業)  本校長のマネジメント力強化(校長先生の知恵袋事業)  本校長のなおります。  「大きのある取組に対してより多くの予算を配当した。このことで校長による積極的な事業推進がなされている。  「大きのおの教育相談等による。」  「大きの協働により、早期を進めていく。  「大きの協働により、早期を進めていく。  「大きのは、中国のおり方とは、「大きの成争を記し、「大きのの方法、は、「大きのの方法、は、「大きの方法、「大きの方」」」」、「大きの方法、「大きの方法、「大きの方法、「大きの方法、「大きの方法、「大きの方法、「大きのうな」」」、「大きの方法、「大きの方法、「大きの方は、「大きの方法、「大きの方は、「大きの方は、「大きの方は、「大きの方は、「大きの方は、「大きの方は、「大							
たり   たり   たり   たり   たり   たり   たり   たり	吉田小・中学校を指定校とし						
・校長のマネジメント力強化(校 特色のある取組に対してより多くの 長先生の知恵袋事業)							
************************************							
よる積極的な事業推進がなされて りを進めていく。 H27 A H27 A 子育で支援課との協働により、早期 支援コーディネーターを配置し、市・早期からの教育相談等による 長部局の関係各課、特別支援学 今後も子育で支援課と協働で早期							
子育て支援課との協働により、早期 支援コーディネーターを配置し、市 ・早期からの教育相談等による 長部局の関係各課、特別支援学 今後も子育て支援課と協働で早期	を先生の知思袋事業)						
支援コーディネーターを配置し、市   A   ト 早期からの教育相談等による 長部局の関係各課、特別支援学   今後も子育て支援課と協働で早期							
就学支援の充実   校、医療機関そして幼稚園、保育   支援事業に取り組んでいく。   H28 A   園との連携を図り、4歳児の適正就	<b>尤学支援の充実</b>						
学相談を行い、成果が見られた。 H27 A							
・学校運営協議会を核とした地   全小中学校に学校運営協議会が   地域コミュニティとの連携を強め、   A	学校運営協議会を核としたは						
域コミュニティ組織の活用による  設置され、各学校の状況に応じたコ   地域とともにある学校づくりをさらに   H28 A   上28   A   上29							
進 る。							
嘱託指導主事が中心になって各種報告や相談等を受け、ケースに応いしめの学校にも起こり得るもしていじめの解消に向け取り組んでいるのという認識を持ち、いじめの早期によるいじめの早期対応等の充まを受け、での「いじめ問題等発生防疾があるとともに、人権教育の充実を図り、児童生徒の人権意識は表現的ながある。	こよるいじめの早期対応等の						
上支援部会」や各学校での「いじめ あこう による は、							

基本目標④ 嬉野市で安心して暮らしたい"地域"をつくる										
重要業績評価指標	目標	基	:準値	H27	H28	平月	成29年度末実績			
里女未禎計価招保	平成31年KPI	年度	値	値	値	値	把握方法			
自主防災訓練を実施する地域コミュニティ数	7地区	H26	3地区	3地区	4地区	7地区	実績 (市民協働推進課)			
健康寿命	延伸	H23	男:79.00歳 女:84.02歳	-	男:78.89歳 女:84.14歳	男:79.52歳 女:84.22歳	H27佐賀県算出資料			

<i>进</i> 水为 ip	ÆIT	1120	女:84	4.02歳		女:84.14歳	女:84.22	咸		
(1)コミュニティ活動の仮	足進									
重要業績評価指標	目標		準値	±	H27	H28		平成2	29年	度末実績
自主防災訓練を実施する 地域コミュニティ数【累計】	平成31年KPI 7地区	年度 H26		直 也区	値 3地区 (3地区)	値 4地区 (1地区)	値 7地区 (3地区		(†	把握方法 実績 ī民協働推進課)
	平成2	29年度の	進捗	状況	(平成30:	年3月末	時点)			,444 - 4-v
具体的な施策	これまでの取組(進捗	大成果、課	題等)	9等) 今後の取組予定				評	価	備 考
・市内7地区の地域コミュニティの自主的・積極的な各種コミュ	活動に対して、交					ティ活動に		Д	١.	※評価欄について A:取組を実施した(実施済・実施 中) B:取組を一部実施した C:方針、具体策等を検討中 D:未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
ニティ活動の支援	援を行った。			(, )	( I J W () )	KIRCII.	J C U · \ 0	H28	Α	
・地域コミュニティの活動状況 等を嬉野市ホームページや市 報及びコミュニティ広報紙の地	各コミュニティによ	市でも市	ī報·	情報発信の継続及び内容の充 実を図る。				Δ	`	
区内全戸配布などを通じての情報発信の充実	<b>外宝尸配布などを通しての情                                    </b>				<b>長を凶る。</b>			H28	Α	
· 成元旧 07 元 天								H27	Α	
・各地区地域コミュニティの自	行政区単位の避動で実施。 講演会な	ども含め	ると			避難訓練	の実施	В	}	
主防災活動の促進を支援	すべてのコミュニ <del>・</del> 施した。	アイで沽男	かま きょうしゅう かいしゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう	を扱え	えしていく	0		H28	Α	
						H27	Α			
・NPOの設立・運営支援や各 種CSO・ボランティアの交流や	県からの情報を名配信した。	5団体に向			県などから情報があった場合! 積極的に配信していく。		∼場合は	Д	\	
情報提供の促進				1只1型1	13168618			H28	Α	
								H27	В	
・地域住民等による主体的な影響がはまます。			ぱい	今後も継続し、更なる拡大を		大を図	В	3		
観づくり活動の推進 	活動に取り組んた	0		る。				H28	Α	
								H27	Α	
<ul><li>地域コミュニティセンターの整備・充実</li></ul>	フダーを析取した。			に、指	定管理を	と含めた道		Д	١.	H28からの新規
	轟·大野原地区) 				寸していく	0		H28	Α	
								H27	_	

(2)地域の力で安全・安心のまちづくり										
重要業績評価指標 -	目標		準値		H27	H28		平成2	29年	度末実績
主女术候们圖店标	平成31年KPI	年度	1	直	値	値	値			把握方法
消防団員数	1,050人	H26	1,04	45人	1,045人	1,048人	1,044,	人		実績 (総務課調べ) 
女性消防団員数	40人	H26	38	8人 37人 42人 36人						実績 (総務課調べ)
防災に関する地元説明 会の開催【累計】	88行政区	H26	25行	テ政区 31行政区 61行政区 80行政 (6行政区) (19行政区) (19行政区)						実績 (総務課調べ)
防犯灯のLED化【累計】	1,988/3,000	H26	335/	/3,000 635/3,000 883/3,000 1,183/3,0						実績 (総務課調べ)
	平成2	29年度の	進捗	状況	(平成30:	年3月末	時点)	-		144
具体的な施策	これまでの取組(進捗	。	題等)		今後の	取組予算	 F	i 評	価	備考
・消防団のPR、消防団への理 解促進、消防団員優遇措置等	横断幕・のぼり旗消防団員募集」を	掲げて市			な広報活		こよるPRと消			※評価欄について A:取組を実施した(実施済・実施 中) B:取組を一部実施した C:方針・具体策等を検討中 D:未着手または見直しが必要
による消防団員確保対策事業 の実施		広報パレードを実施。  消防団PRバッグ作成。			を実施していく。					下段は過年度の評価
							H27	Α		
・女性消防団員による広報活	毎月1回と火災予 地広報活動や紙	これまでの取組みを継続してい く。					١.			
動への支援	火広報活動への支援を行った。						Α			
						H27	Α			
・土砂災害防止法に基づき、住民へ危険性の認識と防災、避難	地元説明会は終了したが、各地 区や各コミュニティの会合や防 災訓練等の場において防災に 関する説明等を行い、防災意識 の向上を図った。			これまでの取組みを継続してい く。				Δ	١	
に関する地元説明会の実施								H28 H27	A A	
・土砂災害防止法対象外の地 区でも、行政嘱託員を通じ危険 箇所マップを用いた危険性や避	区でも、行政嘱託員を通じ危険   谷地区から火舌危険固角 		トロールを		きでの取糸	組みを継続してい		А		
難等防災についての説明会を 実施	行い、行政嘱託員・消防団・地 元住民へ説明している。			ζ.					Α	
<b>美</b> 胞		Α								
・毎年300本程度の防犯灯等の 設置など計画的なLED化の促	十成29年度中に3	300本のL	ED化			毎年実施		A 全て		
進	を行った。			の防犯灯のLED化を行う。			<b>5</b> 。	H28	Α	
								H27	Α	
・建物等の地震に対する安全	大規模建築物(市内旅館)の耐 震補強設計補助事業を実施。 防災拠点施設の耐震診断を実			耐震改修促進計画を更新し、市			Δ	١		
性の向上のための耐震改修の 促進	施。	施。				計画を進		H28	Δ	
	木造住宅の耐震診断補助事業 を実施。							H27		
・自助・共助を含めた防災への 意識向上のための啓蒙活動	コミュニティにおける自主防災組織の活動に対して、講習会等を実施。			全てのコミュニティで自主防災 組織として活動が活発化するよう講習会や防災訓練へのサ ポートを行う。			とするよ	Д Н28		H28からの新規
								H27		

(3)空き家対策の推進											
重要業績評価指標	目標							平成29年		度末実績	
工文水源 11 個 11 水	平成31年KPI	年度	1	直	値	値	値			把握方法	
特定空き家指定率【累計】	100%	H26 未訓		調査	0%	0% 0%				実績 (総務課調べ)	
平成29年度の進捗状況(						年3月末	時点)			備考	
共体的な心界	これまでの取組(進掛	これまでの取組(進捗、成果、課題等)			今後の取組予定					IIII 75	
・市内空き家の全件調査を行い、特定空き家対象物件の把提供である。 かんかい かんしん かんかん かんかん かんかん かんしん かんかん かんしん かんし	。空家等対策協議:	会を設置。	o.	定空	等対策協 家等の判	断基準表		Ш	3	※評価欄について A:取組を実施した(実施済・実施 中) B:取組を一部実施した C:方針、具体策等を検討中 D:未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価	
10、特定至6多月条物件0分元	±				インを作り	成する。	する。		В		
						H27	С				

(4)健康長寿のまちづく	[b]									
重要業績評価指標	目標	基	準値		H27	H28	3	平成29年度		度末実績
里安未模計価担保	平成31年KPI	年度	ſ	直	値	値	値			把握方法
特定健康診査受診率	45.0%	H26	39	.9%	40.9%	43.0%	43.8%		(	受診者実績 (健康づくり課)
特定保健指導受診率	60.0%	H26	34	.4%	4% 48.3% 24.9%		48.3%		(	受診者実績 (健康づくり課)
人間ドッグ事業受診者数 (国保被保険者含む)	150人	H26	H26 85.		94人	128人	102人		(	受診者実績 (健康づくり課)
脳ドッグ事業受診者数 (国保被保険者含む)	210人	H26	20	1人	172人	181人	164人		(	受診者実績 (健康づくり課)
がん検診(胃がん)	15.0%	H26	12	.2%	11.4%	11.7%	11.1%		(	受診者実績 (健康づくり課)
がん検診(子宮がん)	35.0%	H26	30	.7%	30.9%	34.0%	34.8%		(	受診者実績 (健康づくり課)
がん検診(乳がん)	35.0%	H26	33	.0%	33.6%	37.6%	37.9%		(	受診者実績 (健康づくり課)
がん検診(大腸がん)	30.0%	H26	24	.4%	24.3%	26.3%	25.8%		(	受診者実績 (健康づくり課)
がん検診(肺がん)	25.0%	H26	22	.3%	22.1%	24.5%	24.4%			受診者実績 (健康づくり課)
がん検診(前立腺がん)	35.0%	H26	29	.1%	28.4%	31.1%	32.1%		(	受診者実績 (健康づくり課)
	平成2	29年度σ	進捗	状況	(平成30	年3月末	時点)			I+++
具体的な施策 	これまでの取組(進捗	b、成果、課	題等)		今後の取組予定				価	備考
・第2次嬉野市健康総合計画 (H25年度〜29年度)の推進及 び中間見直し						づくりを7 標を設定し 冬目標であ づくり」に「	してお らる「健	H28	A	※評価欄について A:取組を実施した(実施済・実施 中) B:取組を一部実施した C:方針、具体策等を検討中 D:未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
老人会や地域コニュニティー・地域での健康意識の向上に よる特定健康診査・特定保健指 導実施率向上の推進 で取り組みをしているが、意 改革の難しさに直面している。				健康講話を て、なるべく地域へ足を運び対 を診率向上 面形式での取り組みを実施した H28					Α	
・生活習慣病やその他の疾病の早期発見・予防対策として人間ドック・脳ドック検診の実施	年、予定人員を満かし、国保人間ドかし、健康長寿人間、回しか補助対象とが経過して病状にても、補助での再	人間ドックと脳ドック検診は例 年、予定人員を満たしている。し かし、国保人間ドッグが5年お き、健康長寿人間ドッグが生涯1 回しか補助対象とならず、年数 が経過して病状に変化が現れ ても、補助での再受診ができな いといった課題もある。					病院が ▪受診希	H28 H27	Α	
・がん検診受診促進のための 普及啓発と受診率の向上	受診促進と普及 め、市報や防災行 活用して取り組ん 受診率の低下は	等を しかし	引き続き、受診促進と普及啓 のため、広報車での巡回やHP 行政放送を利用して受診率向 、上を目指す。働く世代の受診率 向上のため、日曜・夜間検診を 取り入れていく。			回やHP、 診率向 )受診率	H28 H27	Α		
・市民一人ひとりの生涯健康スルテ作成を目指した保健指導・制の充実・促進	用している。万全 本 ある程度は対応で システムとなれば	現在は、健康管理システムを活用している。万全ではないが、ある程度は対応可能である。新システムとなれば経費も甚大なため、検討が必要である。						H28 H27	С	

(5)高齢者が元気で住る	み続けられるまち	づくり								
<b>新西娄续≕/正比梅</b>	目標	基	準値		H27	H28	-	平成	29年	F度末実績
重要業績評価指標 -	平成31年KPI	年度		直	値	値	値			把握方法
一般介護予防事業の	11,000人	H26		76人 ·次)	3,954人 (一次)	5,282人 (一次)	12,955.	Ţ	実績報告	
参加者数(延べ)	,	H26		94人 [次]	5,508人 (二次)	5,670人 (二次)	,000			(福祉課調べ)
認知症サポーター数	1,500人	H26	1,0	12人	1,196人	1,318人 1,479人		٨		実績報告 (福祉課調べ)
具体的な施策	平成2	29年度の	進捗	状況	(平成30:	年3月末	時点)			備 考
六件のな池水	これまでの取組(進捌	步、成果、課	題等)		今後の	取組予算	定	評	価	IIII 17
・期間の延長を含めた介護予 防教室(運動教室・健康教室)	介護予防教室の制度し、一人ひとりが参加ができる思想	が長期間にした。ま	教室	て、週	も、長期間 運動機能 <i>の</i> :もに、外と	の低下の	防止を図	А		※評価欄について A:取組を実施した(実施済・実施 中) B:取組を一部実施した C:方針、具体策等を検討中 D:未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
の開催	開催曜日を調整し、複数の教室に参加できるようにした。			ていく。					Α	
		に参加できるようにした。								
・「日本版CCRC」の検討	日本版CCRC」の検討 他自治体の動きを注視してい 他自治体のモデル事業等を参 る。 考に検討していく。					等を参	H28	D		
							H27	D		
・地域や職場、学校など小学生から高齢者までの様々な年齢 層での認知症サポーター養成 講座の実施	き 地域コミュニティ <i>0</i> 学校、成人、地域 できた。			今後も引き続き、いろいろな分 野での開催を検討していく。					A A	
・講座の開催を通じ、生涯にわたり学ぶ気持ちの育成と生きかいづくりへの支援		『毎日の生きがい 引き続き、左記事業を行ってい						Þ	Α.	
いつくりへい又抜 	向上を図った。			••				H28	Α	
									Α	]
・昔遊びやしめ縄づくりなどを追 した多世代交流の推進	め縄づくりや将棋 代間の交流を図っ コミュニティスクー	地域コミュニティの事業の中でしめ縄づくりや将棋等を行い、世代間の交流を図った。 コミュニティスクール事業で、高			今後も同様の事業を継続してい			Å	Α	
	齢者が小学生へ昔遊び等を伝							H28	Α	
	はない、かれのいで	授し、ふれあいを図った。							В	

(6)地域における身近な移動手段の確保											
重要業績評価指標	目標		準値					平成29年度末実績			
里安未祺計Ш招係	平成31年KPI	年度	佢	直	値	値値値				把握方法	
公共交通利用者数	372,000人 H26 372,000				364,506人 360,463人 355,948			人		輔助金実績報告 (企画政策課)	
目状的补炼等	平成2	9年度の	進捗	状況	(平成30	年3月末	時点)			/++ -+/	
具体的な施策 	これまでの取組(進捗	、成果、課	題等)		今後の取組予定評価					備考	
・地域と地域を結ぶための既有 の路線バス、乗合タクシーの存 続		売の必要		者とすみ、乗	うと地域は 客数のは	状維持及 主民等をも 曽加を目 こ応じ路	巻き込 指してい	£	٨	※評価欄について A:取組を実施した(実施済・実施 中) B:取組を一部実施した C:方針、具体策等を検討中 D:未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価	
				行う。				H28	Α		
								H27	Α		
・福祉バスを含めた市内の交 通システムの開発・検討					を通システ		3				
							. 1 1 7 0	H28	С		
							H27	С			
・バス利用者の増加を図る為、 嬉野温泉バスセンターについ て、市民が日常的に利用したい と感じるバスターミナル機能充	所有者である「JR 「西肥自動車」並で ある「祐徳自動車 シー」と協議を行い 野温泉バスセンタ	ゾに利用 」、「温泉 い、今後 <i>0</i>	者で タク D嬉	者とのと、地	)協議継続 域公共交	含めた交 続はもちる ・通活性化 協議・検証	ろんのこ と協議会	C	)		
実の検討	まとめた「嬉野市			や会議の場で協議・検討を行っていく。			11 - 11 -	H28	С		
	画」を策定した。							H27	С		